

特集

# 『いまりんバス』に乗ろう

—地域の公共交通をみんなで支える—

● 問合先 地域振興・公共交通対策課 ☎(23)2114

あなたは、この先、何歳まで車のハンドルを握れると思いますか—誰にでも、いつか車を運転できなくなる日がやってきます。その時、もし『公共交通』が無かったら、買い物や病院には、どのようにして行きますか。

日常の移動手段を持たない住民のために、自治体などが運行するコミュニティバス。私たちの『いまりんバス』もそのひとつ。平成17年に運行開始して以来、10周年を迎えました。市街地や中山間地などの交通空白地帯で交通サービスを提供し、高齢者を中心に累計60万人に利用されています。

しかし、ここ数年、いまりんバスの乗客数は減少しています。はたして、このままでよいのでしょうか。

今回の特集では、地域の社会福祉活動などに熱心な外園葉さんが、いまりんバスの現状や課題、行政の取り組みなどをレポートします。

皆さんも、いまりんバスを将来に引き継いでいくために何ができるか、外園さんと一緒に考えてみましょう。

私が取材を担当しました!

## 市民リポーター

ほかその よう  
外園 葉さん

### プロフィール

市母子寡婦福祉連  
合会長や社会福祉協  
議会理事を務め、福  
祉活動に携わって  
います。交通弱者対策  
にも関心があります。



Community Bus Report

笑顔とコミュニティを運ぶバス

いまりんバスには、どんな人たちが、何を目的に利用しているのかわりたくて、私もバスに乗ってみました。乗客の思いを伺いながら感じたことをレポートします。

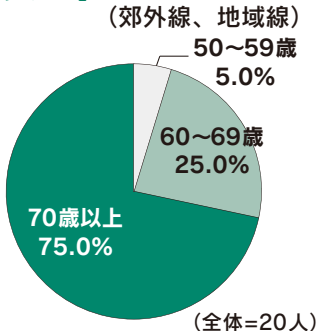


いまりんバスの概要

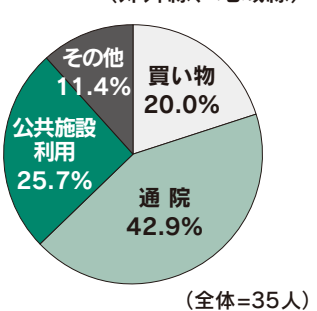
概要

いまりんバスは、市のコミュニティバスです。3系統10路線で運行され、中心部の病院や公共施設などを循環する市街地線や、市街地とその郊外を周回する郊外線、周辺地域と近隣の主要道路を結ぶ地域

【グラフ1】乗客の年齢



【グラフ2】利用目的



住民を支える『生活の足』

線があります。また、いまりんバスは、道路の状況に応じて2種類の車両があり、幹線道路を通る市街地線と郊外線は小型バス(27人乗り)、道幅が狭く住宅地を縫うように伸びる道路を走る地域線には、小回りが利くワゴン車(12人乗り)が導入されています。

いまりんバスは、車の運転免許がないか、免許はあっても車を持っていない人に利用されています。年齢層は、高齢者がほとんどで「グラフ1」、利用の目的は、主に買い物や通院といった日常生活に欠かさない理由です「グラフ2」。いまりんバスは、住民の『生活の足』となっています。

バスに乗ると、知り合いも乗ってくる。いろんな話ができるんです。出かけるのが楽しみになりました —



→バスの車内で談話する乗客たち

多いときは、1日に3回乗ることも



みどり 吉原美登里さん (82歳 浜町)

毎日、買い物に行くために利用しています。この歳になると、重い荷物を持って歩くのはつらいので、いまりんバスがあると出かけやすくて、とても便利です。車内で偶然、知り合いに会うのも楽しみです。

コミュニティがそこにある

そこに

2月某日、私も、いまりんバスに乗車してみました。まず乗ったのは、郊外線と地域線の不便な地域にも停留所が設置されていることです。乗客の目的地は病院やスーパーなどで、顔見知りばかりです。停留所ですべて話している間に話が始まり、乗車中も話題は尽きません。まるで、移動集会所のようでした。

この路線は、中心部にある公共施設や病院などをつなぐ、循環バスです。1人で乗車する人もいますが、知り合いと隣同士になると、「今日はどこに行くの?」「あそこの奥さんも乗るの?」など、こちらも会話に花が咲きます。そして、目的地に着くと、「お先に」とあいさつを交わして下車する姿も印象的でした。

どの路線にも、乗車人数は少ないながらも、同じ時間、同じ空間を共有するからこそ生まれるコミュニティがありました。

買い物や通院に便利で助かっています



原田ツギノさん (86歳 木須町)

週に2日、脇田町の病院まで通院するために利用しています。車の運転免許は、家族に勧められて返納しました。街中まで移動するのに重宝しています。顔なじみも増えて、毎回いまりんバスに乗るのが楽しみです。



↑ 郊外線を走るワゴン車。全路線の中で、この路線は乗客数が増加傾向にある

Community Bus Report

# いまりんバスが あぶない

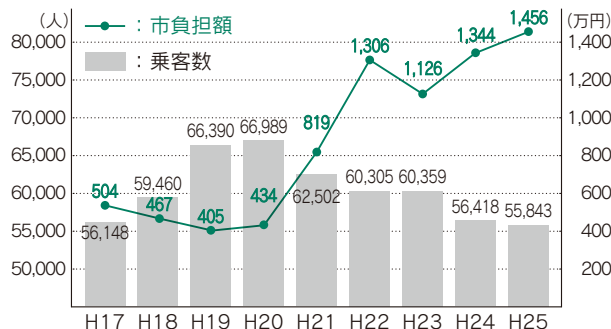
移動手段のない人が必要としている  
いまりんバスも、運営状況は年々  
苦しくなっています。インタ  
ビューを交えて、その背景や課  
題、対策について取材しました。



## 減り続ける乗客と 膨らむ市の負担

いまりんバスは、平成17年1月に市街地線が運行開始されて以降、平成21年に地域線、平成24年には郊外線も開通しました。路線全体の乗客数は、

【グラフ3】いまりんバス乗客数と市負担額の推移（全線）



乗客の大部分を占める高齢者人口の増加とともに、順調に伸びていきましたが、平成20年度から減少しています。また、運行収支でも、平成21年度以降に地域線や郊外線が新設されたこともあって、市の負担額が増加しています

**グラフ3**。乗客数が減少した原因は、いくつか考えられます。その1つに、高齢者全体の数は年々増えていますが、その中には車の運転免許を持ち、日ごろから運転している世代が多くを占めるようになっていくことが挙げられます。

## コミュニティバスが無くなったら...

乗客数の減少と運行収支の悪化が続くいまりんバス。運行経費の赤字分は、市が負担しています。ただし、市の財政状況も、年を追うことに厳しさを増しています。このまま乗客数が減り続ければ、路線や便数が少なくなったり、バス自体が廃止されたりする可能性もあります。そうなれば、私たちの街全体が交通空白地帯だらけになって、高齢者の引きこもりや孤独死が増えるかもしれません。

想像してみてください―あなたが歳を重ね、いつか移動が不自由になったとき、もし交通手段が無かったら...



→ 買い物を終え、バスを待つ利用者

## インタビュー the Interviews

### いまりんバスを必要としてくれる市民が、たくさんいます。

公共交通は、単に移動の手段としてだけでなく、まちづくりや健康づくり、観光の振興などに効果をもたらします。これまでの公共交通政策は、民間業者に任せきりででしたが、今後は自治体と事業者、地域住民がしっかりと手を携えて取り組んでいく必要があります。

おかげさまで、いまりんバスは10周年。しかし、課題もあります。これからは、市民の交流の場として定着するよう、公共交通によるまちづくりを皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。



市地域振興・公共交通対策課長  
**中里 昭** Nakazato Akira

● なかざと あきら

## 黙って手をこまねいてはいられない

いまりんバスの厳しい運営状況に、市も対策に乗り出しているようです。

バスの乗客数は、時間帯や曜日によって違いがある中で、乗客に聞き取り調査をしたり、その結果をもとに運行時刻や便数を変更したりして、運行経費の削減や乗車率の向上に取り組んでいます。そして、市民の意見を反映

させるために、市民の代表者がメンバーとなっている『伊万里市民と考える地域交通会議』が設置され、バス運営の現状分析や、乗客数を増加させるための対策などを議論しています。

また、日ごろはバスを利用しない人にも、まずは乗ってもらって、便利さを知ってもらおうと、祭りなどのイベント開催日や一定期間を運賃無料にするなど、いろいろな取り組みを進めています。

インタビュー the Interviews



市民と考える地域交通会議 会長  
安並 勇 さん Yasunami Isamu

● やすなみ いさむ

今は、自分で車を運転している人も、いつか公共交通機関を必要とする時が来ます。せつかく、いまりんバスを導入したのに、廃止するわけにはいきません。もちろん、私も日ごろから、なるべく乗るようにしていますし、近隣の住民にも利用を呼びかけています。乗客が増えれば、増便なども検討できます。多くの人に利用され、地域に愛されるバスとなるよう、交通会議としても、皆さんの意見や要望に真摯に耳を傾け、バスの充実に努めていきたいと思っています。ご理解とご協力をお願いします。

**いまりんバスは、市民による、市民のためのバス。みんなで育てることが大事。**

レポートを終えて

今回、市民という立場で、いまりんバス取材する機会をいただき、日ごろは利用することのない、各地域を走るバスにも乗りました。そこには、移動する小さなコミュニティが存在していました。みんなで寄り合いながら、互いに健康状態を確認したり、情報交換をしたりと、利用者にとって生活の一部になっています。



市民リポーター  
外園 葉 さん

特に印象的だったのは、利用する人のほとんどが、「100円で乗れるバスがあつて助かっています」と口にされたことです。みんなで支え合うことによって、個人の費用は少なくなる—まさに、これこそが公共交通の本質だと感じました。

ここ数年、いまりんバスの乗客数は減少しています。運営する市には、もっと乗りやすいバスにしていくことが求められます。でも、いまりんバスは市民の公共交通機関です。まずは月に1回でも、年に1回でもいい。一人一人が機会を見つけ乗ることが大切です。そうすれば、乗客が増え、いろいろな要望に応えることもできます。

バスの車窓からゆつくりと眺める風景は、車を運転する時にただ流れる景色とは違う、新鮮さと発見に満ちあふれています。皆さんも、気の合う仲間や友人と、ふらっと出かけてみませんか。

Community Bus Report

いまりんバスを 次の世代へ

いまりんバスは、みんなのバスです。誰かが必要とするその時まで、どうすれば存続できるか、私たちにできることは何なのか、皆さんと一緒に考えてみましょう。



一人一人が関われば  
バスは元気になる

いまりんバスの乗客は、ほとんどが高齢者。でも、利用しているのは、それだけではありません。市街地線の車中で、若者を発見しました。市内の高校に通う井手木乃美さんと江口ひかりさんは、市内の温泉施設に行くために乗車したそう。「岩盤浴が好きで、月に1回は行くんです。私た

ちはまだ車に乗れないので、とても便利です」と楽しそうに話してくれました。

2人を見ていて、高齢者だけでなく、日ごろは学校や仕事で忙しい人も、何か目的を見つけてもっと利用すれば、いまりんバスはきつと元気になる—そう感じました。

人が出かける時、その目的はさまざまです。でも、「今日はバスに乗ってみよう」というふうに、一人一人が積極的に関われば、いまりんバスの存在意義が見直され、本当の意味で市民にとって必要な生活の一部になるのではないかと思います。

いまりんバスを  
みんなで守る

駅通商店街の一角にある「駅通プラザ」。ここでは、いまりんバスを待っている人に、休憩スペースを提供したり、事務員がバスの停留所を清掃されたりしていました。

そんな心温まる場面に出会い、いまりんバスを将来になぐヒントを得たような気がしました。必要な人のために、一人一人ができることをやる。そして、みんなでバスを守っていく。過去も、現在も、そして未来も、いまりんバスは必要だと感じました。

↓ 駅通プラザで偶然会って、待ち時間に昼食をとりながら談笑する利用者



↑ 停留所を清掃する駅通プラザの松尾絹子さん